

科学技術教育支援室 報告

室長 上土井 幸喜

1. はじめに

熊本高専の科学技術教育支援室は、地域の人々にものづくりを通して科学への興味・理解を持ってもらう活動を実施するとともに、小中学校等、教育機関との連携を「活動の柱」のひとつとして位置づけ、継続的に小中学校等への「理科実験教育支援」を行っている。このプロジェクトの目的は、これらの「共同教育」の場を通じて、明日を担う素晴らしい若者たちが、地域から育っていくことである。

2. 活動内容

プロジェクトハウスを使っての検討・準備・製作を行った主な理科実験教育支援活動を以下に記す。

(1) 小中学校連携理科授業（招待授業・出前授業）

小中学校との連携理科授業は、科学技術教育支援活動の中でも中心的な活動である。この事業は八代地域の小中学校の理科の先生と連携を取り正規の理科の授業として行なわれている。（図 1）

(2) こども工作教室（ものづくり支援活動）

こども工作教室はものづくりの楽しさを体験してもらうための企画で、子どもたちに本校へ来てもらい本校主催で行う「わいわい工作・わくわく実験ひろば」及び「おもしろサイエンスわくわく実験講座 2016」と地域の保護者会や公民館の要請で行なう出前工作教室の2つがある。本年度は「わいわい工作・わくわく実験ひろば」を2回、「おもしろサイエンスわくわく実験講座 2016」（11/12 八代 C と 11/13 益城町で開催）、出前工作教室も10件以上行なった。（図 2）

(3) 科学技術展示及び工作教室（地域イベント等への参加）

地域の自治体等が行うイベントへ共催等の形で参加して、科学展示物（ミニミニ科学館）の展示や工作教室を行ない、科学的な体験を通して地域における科学への興味や関心の育成に貢献している。展示物や工作的説明は、できる限り本校の学生が中心になって行ない、イベント参加者に楽しんでもらうだけでなく、本校学生の説明能力・コミュニケーション能力の育成にも役立っている。（図 3）

3. おわりに

平成 28 年度の科学技術教育支援室の活動報告書にも記載しているように、活動は多岐に渡り、アンケート結果等からも分かるように多くの子どもたちの科学への興味・関心の喚起に貢献している。今後とも、明日を担う素晴らしい若者たちが育っていくように活動を継続していきたい。



図 1 竜北中との連携授業



図 2 益城町の実験教室での
パフォーマンス（熊本 C）



図 3 児童クラブでの実験
(学生講師)